

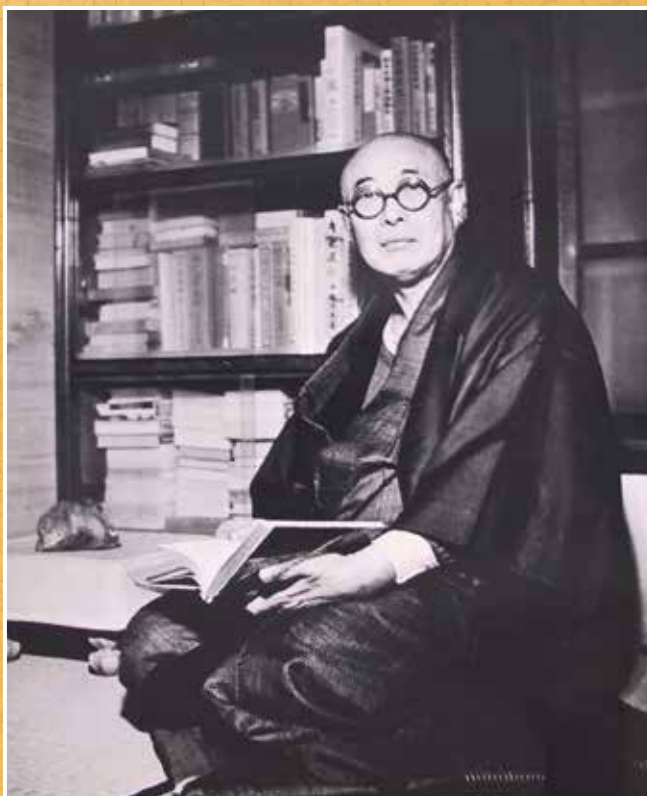
童話作家宣言 100年記念

小川未明

神林恒道名誉館長の言葉とともに

にいがた文化の記憶館
2026年度企画展示

2026
4/14 火 — 7/5 日



小川未明（小川家所蔵・小川未明文学館提供）

美しいだけでは芸術にはならない。
そこに訴えるものがなければいけない。
芸術にはそのものがある。
永遠の命が必ずある。
—そういうことを未明の童話は教えてくれる。

神林恒道（2014年鼎談イベント「小川未明童話の新しい扉をひらく」より）

開館時間 10時—17時（入館は16時30分まで）

休館日 月曜日（5/4は開館）、5/7 ㊟

入館料 一般500円、学生（高校生以上）300円、中学生以下無料
※20名以上の団体は、各料金から2割引

主催 にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日报社
共催 新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業 田村紙商事株式会社
展示協力 小川未明文学館（上越市）、新潟県立図書館

新潟県高田（現上越市）出身の児童文学作家・小川未明。「日本のアンデルセン」と称された未明の作品は、文学性の高い創作童話として広く親しまれてきました。本展では、児童文学の金字塔を打ち立てた未明の代表作を、当館の神林名誉館長の言葉とともに紹介します。

NMMC
Niigata
Memorial
Museum of
Culture

にいがた
文化の記憶館

〒950-0088 新潟市中央区万代 3-1-1
新潟日報メディアシップ 5階
TEL. 025-250-7171 <http://nmmc.jp/>



2026
4/14 **火**
— 7/5 **日**

童話作家宣言
100年記念

小川未明

神林恒道名誉館長の言葉とともに

新潟県高田(現上越市)に生まれた児童文学作家

小川未明(1882~1961年)。社会派の文学を志していた未明は、44歳のときに童話作家として生きる決意を示す「童話作家宣言」を発表しました。その宣言から2026年で100年を迎えます。

未明は代表作「赤い蠟燭と人魚」をはじめ、生涯で1200編を超える童話を創作し、「日本のアンデルセン」「日本児童文学の父」と称されました。1953年には児童文学作家として初めて文化功労者に選ばれました。

本展では、未明の代表作や関連資料を、当館名誉館長・神林恒道(2025年12月逝去)の言葉とともに紹介します。神林名誉館長は、著書『にいがた文化の記憶』や講演の中で、未明童話の美しさとそこに込められた思いが響き合う点に注目し、「美しいだけでは芸術にはならない。そこに訴えるものがなければいけない」と述べています。

小川未明作品の魅力を、名誉館長の言葉とともにあらためて感じていただければ幸いです。

児童文学作家・文化功労者

小川未明 (おがわ・みめい) 1882(明治15) — 1961(昭和36)年 高田(現上越市)生まれ
文学性の高い創作童話によって「日本のアンデルセン」といわれ、坪田譲治、浜田広介とともに草創期の児童文学界の「三種の神器」と呼ばれました。東京専門学校(現早稲田大学)へ進学し、在学中に小説「漂浪児」を発表し、坪内逍遙に認められ「未明」の号を受けました。「赤い蠟燭と人魚」など、生涯で1,200編以上の童話を創作しました。日本児童文学者協会の初代会長。1951(昭和26)年に日本芸術院賞を受賞し、1953(昭和28)年に文化功労者に選ばれました。

にいがた文化の記憶館 名誉館長

神林 恒道 (かんばやし・つねみち) 1938(昭和13) — 2025(令和7)年 新潟市生まれ
文学博士。大阪大学名誉教授。にいがた文化の記憶館の設立を提唱し、2013年の開館と同時に初代館長に就任。會津八一記念館の第4代館長も務め、住まいの大阪とふるさと新潟を往復しながら、幅広いテーマで講演や執筆を続けました。専門の美学芸術学にとどまらず歴史や文化全般に深い学識をもち、郷土の人々に「ふるさとへの愛着と誇りを持ってほしい」という強い思いを抱いていました。当館関連の著書に『にいがた文化の記憶』監修に『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』(いずれも当館で販売中)などがあります。

主な作品と出来事(抜粋)

- 1882 新潟県高田に生まれる
- 1904 小説「漂浪児」
- 1907 小説集『愁人』
- 1910 童話集『赤い船』
- 1919 「金の輪」
- 1920 「野薔薇」
- 1921 「赤い蠟燭と人魚」
- 1922 「月夜と眼鏡」
- 1926 童話作家宣言
- 1927 「金魚売」
- 1928 「ガラス窓の河骨」
- 1946 「兄の聲」
- 1951 日本芸術院賞受賞
- 1953 文化功労者に
- 1956 郷里春日山神社境内に詩碑「雲の如く」建立
- 1961 高円寺の自宅で永眠
- 1978 『定本 小川未明童話全集』(全16巻)完結

2026

関連イベント

要事前申込
先着順

講演会「大正期・未明童話の激動と豊饒」

5月31 **日** 14:00(13:30開場) ~ 15:30(予定)

講師 **小笠 裕二氏**
(上越教育大学教授、小川未明文学館専門指導員)

会場 **新潟日報メディアシップ 2階 日報ホール**

参加費 **500円**(会期中有効の観覧券付き)
※参加費に入館料割引等は適用されません
※当館パスポート会員は無料

定員 **先着120名** ※事前の申し込みが必要です

お申し込み方法 ①はがき ②FAX ③講演会専用申込フォーム

①~③のいずれかに、「氏名・読みがな、住所、電話番号」をご記入のうえ、にいがた文化の記憶館にお申し込みください。当館窓口でも受け付けています。
※聴講券は発行しません。定員に達した場合のみ、連絡いたします。
※お電話やご来館は、開館日の開館時間内をお願いします。



講演会申込フォーム
QRコード

担当学芸員による 解説会

4/25 **土**、5/23 **土**、6/27 **土**
14時から(30分程度) 申し込み不要、要当日観覧券

次回企画展示

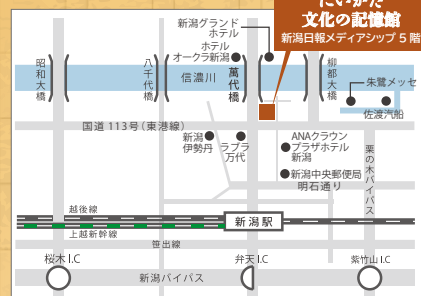
脳神経外科医 × 芸術家 中田瑞穂(仮称)
8/11 **土** — 11/1 **日**

【交通のご案内】

新潟駅から タクシー 約5分 / 徒歩 約15分
新潟空港から タクシー 約15分

【メディアシップ駐車場のご案内】

第1駐車場 料金 220円 / 30分
第2駐車場 昼間料金 200円 / 30分



NMMMC **にいがた文化の記憶館**

☎ 025-250-7171
FAX 025-250-7040
http://nmmc.jp/

〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1
新潟日報メディアシップ 5階

開館時間 10:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝休日の場合は翌日)、展示替え期間

【エレベーターの運転時間について】
開館時間以外は、メディアシップのエレベーターは5階に止まりません。ご来館の際はご注意ください。

